

発行／出雲市 文化環境部 環境政策課 減量推進係 E-mail:kankyou-seisaku@city.izumo.shimane.jp

〒693-8530 出雲市今市町7-0 ☎0853-21-6988 FAX 0853-21-6597

## ごみ処理にはこんなにお金がかかっています！

出雲市内から排出されるごみを処理するために、平成24年度は約18億円を越す多額の費用がかかりました。今回はごみの処理経費について考えてみましょう！

出雲市のごみ全体の排出量は、平成23年度の62,632tから平成24年度は61,764tに減少しましたが、可燃ごみについては右のグラフ（図1）のように45,910tから46,504tへと増加しています。事業所から排出される可燃ごみが増えたのが主な原因だと思われませんが、一般家庭においてもごみの

図1：出雲市の可燃ごみ排出量



減量は喫緊の課題と考えています。それは、ごみ処理経費が市の財政にも大きな負担となっているからです。

平成24年度の出雲市全体のごみ処理には18億3,568万円もの経費がかかりました。これに対し皆様からいただいたごみ袋代などのごみ処理手数料は6億1,826万円、全体経費の約34%でした（図2）。

この多額なごみ処理経費をいかに抑えていくかが、市の課題となっています。



市民の皆様が普段生活されている中で、意識的にごみの減量に取り組んでいかなければ、決してごみが減ることはありません。そこで、市民全体の取り組みとして「1人1日100グラムのごみダイエット」に挑戦してみたいはいかがでしょうか。この取り組みを行うことによって、年間約6,400トンのごみを削減することができます。

また、先にも述べたとおり、出雲市内の事業所から排出される可燃ごみが増加しています。出雲市の事業所で働いていらっしゃる皆様も、リサイクルを推進していただくなど事業系一般廃棄物の減量に積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

ごみを減らすためのキーワードは「3R」です。「リデュース（発生抑制）」「リユース（再

使用）」「リサイクル（再生利用）」をあらゆる場面で実践することが大切です。本当に必要なものだけを購入し、まだ使えるものは繰り返し使うなど、ちょっとした心がけでごみは随分減っていきます。

でも、本当に大切なキーワードは「もったいない」ですね。先人から受け継いだ言葉を生活の礎にしていく必要があるのではないのでしょうか。

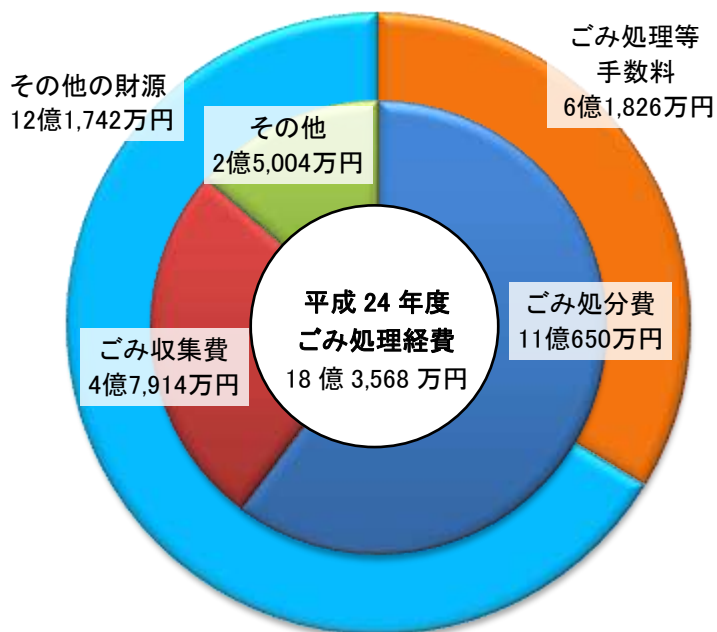


図2:平成24年度ごみ処理経費の内訳  
円の内側:支出 円の外側:収入





# 教えて！ ごみの出し方！

このコーナーでは、知っているようで知らなかったごみの出し方や、ついつい起こってしまうトラブルなどをテーマに分かりやすく解説していきます。

今回は・・・

古紙はリサイクルステーション等へ  
資源ごみとして出しましょう！



段ボールなどの古紙は資源ごみです。必ずリサイクルしましょう。

また、束ねて可燃ごみの日に収集券で出されているケースを見受けます。古紙を束ねて収集券で出すことはできませんのでご注意ください。



※ 古紙の収集日・収集場所は地域によって異なりますので、お住まいの地域のごみカレンダー等をご確認ください。

※ カーボン紙や感熱紙、ビニールでコーティングされた紙などはリサイクル出来ません。

# 突撃！ごみ減量化レポート！

このコーナーは、皆様のご家庭や職場でごみ減量をどのように工夫して実践しているかを紹介する情報コーナーです。

今回は大社地域にお住いの田中さんのご自宅に突撃させていただきました。

\*\*\*\*\*

大社地域にお住いの田中真紀子さんは、出雲市が委嘱するごみ減量化アドバイザーとして、地域でのごみの減量に関する活動を積極的に展開しておられます。今回は始められてから約8年になる段ボールコンポストについて教えていただきました(^)

「我が家は目の前に海がありますので、本当によく魚を食べるんですよ。でもその分生ごみがたくさん出てしまいます。以前は可燃ごみ収集日に毎回大きいサイズのごみ袋を最低2つは出していたんです。そんなある時に、地元のコミュニティセンターで段ボールを使った生ごみ堆肥化（段ボールコンポスト）の講習会がありまして、それに参加しました。」



生ごみをよく混ぜます

段ボールコンポストを導入されたらどうなりましたか？

「それが思ったより簡単ですし、習慣になってしまえば煩わしさもありません。不思議なことに、魚の内臓もきれいに消えていまして夫もビックリしてるんですよ。ごみ袋も小さいサイズを週に1回出すだけに減りました。」



おお！ごみを減らして、さらにごみ袋代を節約できるなんて！スタイリッシュですね(^) 他には何かごみを減らすことをしていらっしゃいますか？

「そうですね。地元のお薬師さんに『瓔珞（ようらく）』を飾っていますが、ご近所の皆さんと古い着物の切れ端や使わなくなった風呂敷を使って作ります。いろいろな形があって、地元のおばあさんたちと楽しく作っているんですよ。」

地域の活性化にもリサイクルが役立っているのですね。とても素晴らしいお話を伺うことができました。

皆さまも田中さんのように、楽しくごみの減量化に取り組んでみませんか(^o^)/



瓔珞がきれいに飾られています





# 働くオジサン! こんにちは!

前回から始まりました「働くオジサン！こんにちは！」は、ごみ処理の現場で働いていらっしゃる職員さんから、市民の皆様へ生の声を伝えるコーナーです。

第2回目の今回は、出雲エネルギーセンターの浜崎さんにレポートしました。

出雲市の可燃ごみ処理場「出雲エネルギーセンター」で運転管理業務を請け負われているバブ日立工業（株）出雲運転管理事務所の浜崎所長さんは、出雲市全域から搬入される可燃ごみをいつも見守っているごみ処理のスペシャリストです。



毎日毎日たくさんのごみが入ってきますが、何か困ったことはありませんか？



「はい。可燃ごみが近年増加傾向にあります。出雲市民の皆様にはごみ減量化のご協力をいただいておりますが、まだまだ分別されていないごみがたくさんあるように感じます。」

それはどんなごみですか？

「金属なども依然として混入していますが、最近目立つのは『古紙』の混入ですね。段ボールや新聞・雑誌が可燃ごみとしてたくさん搬入されています。焼却する前に可能な限り取り除くのですが、年間100t以上になります。」

それはいけませんね。古紙は積極的にリサイクルするべきなのに、資源を燃やしてしまうなんて本当にもったいないですよ。

「はい。さらに言いますと、電話帳のような分厚い古紙は鉄に近い硬さになりますので、破碎機を壊すこともあるんですよ。やはり古紙はリサイクルステーション等に出してくださいね。」



取り除かれた古紙類

確かに、古紙をリサイクルステーション等に出せば無料で回収してもらえるのに、わざわざ有料のごみ袋を使ったり、出雲エネルギーセンターの受付で処理手数料を支払うなんてもったいないですね。私たちは生活の中にリサイクルの意識をもっと持つべきではないでしょうか。



# リサイクルは 先人に学べ!



今回から始まりました新シリーズ「リサイクルは先人に学べ!」は、江戸時代から昭和初期の私たちのご先祖様が生活の中で普通に行っていたリサイクルについて学び、現代の私たちがどのようにその知恵を生かしていくか?というコーナーです。

江戸時代の日本は現代以上のリサイクル社会であり、私たちが目指している持続可能な循環型社会であったと言われていています。そのため、当時のヨーロッパの都市と比べても日本の都市はとても清潔であったそうです。

江戸時代はごみを減らすためのリサイクルではなく、「モノを大切に最後まで使う」という考え方により、自然にリサイクル社会を生み出していったのです。使い捨て文化と呼ばれる現代の日本に生きる私たちにとって、江戸時代のモノを使いつくすという考え方は見習うべき点が多いかもしれません。

例えば、右の絵は「陶磁器の焼き継ぎ」を仕事としていた人を描いたものです。

現代を生きる私たち出雲市民の多くは、陶磁器が割れれば接着剤などで修理をせず、「埋立ごみ」の収集に出されるのではないのでしょうか?昔は修理専門の職人が、割れた茶碗や瀬戸物類を接着して再生するのが普通だったようです。

古い時代は、陶磁器類の接着に漆を使っていました。江戸時代に入っても、高級品は漆で修理されてい



出展:「守貞謄稿」国立国会図書館

ましたが、白玉粉（鉛が主成分）やふのり（無色ガラ

ス粉末）で接着してから加熱する焼き継ぎが発明されてから、この方法で修理されることが多くなり、庶民の使う陶磁器も修理して使い続けられたようです。

私たちは江戸時代の人々の暮らしを再現することは出来ませんが、モノを大切にしていた先人たちの精神を受け継ぎながら、豊かな生活を過ごしていきたいものです。

